私にとってのサービスラーニング

社会福祉学部保健福祉学科2年　角谷　信之
活動先：NPO 法人　もやい
クラス：村上　徹也　先生

1.　SL を通しての自分の成長と気付き

初めに、私はサービスラーニングは第一希望のゼミではなかった。そもそも第一希望のゼミに落ちてしまい、最終的にただ定員数が多いゼミにしようという理由で、どんなことをやるゼミなのかもほとんど分からない状態で、このゼミを履修することに決めた。正直なところ、ゼミでは楽をして、適当にこなして、単位が取ることが出来ればいいという考えだった。

しかし、サービスラーニングの主旨や意図、内容を知ることで、サービスラーニングへの興味が湧き、頑張っていこうという気持ちになった。何故そう思ったのか。私は福祉には、興味はあったものの、本気で向き合ったことはなく、自分から動くこともなく、今まで“福祉”というものに、直接関わったことがなかった。しかし、このサービスラーニングというのは、全て自分たちでやる訳ではないが、福祉に関われる機会を与えていただき、そこからは自分たち次第ということだった。そこで今の自分には合っていると感じ、とてもやる気のそそられる、やりがいのありそうなゼミだと思ったからである。

そして活動先を選ぶ際、せっかく活動をするなら、普通では出来ない貴重な活動が出来るところがいいと、私は考えていた。

そこで、いくつかの活動先、そこでの活動・事業内容を見た中ですぐに自分の中で決まったのをよく覚えている。明らかに他の団体とは違った活動をしている「もやい」というところだ。もやいの活動内容が他とは違うからなのか、人気があり定員オーバーだったが、皆の譲り合いのおかげで、もやいに行かせていただくことに決まった。そこで、更に頑張ろうという気持ちが高まった。

まずグループで、自分たちで企画したイベントや催しを、活動先で実行するというのだが、最初はグループ内のみんなが初対面で、お互いのことを何も知らなかった。しかし、色々と個々で調べたり、互いに意見を出し、一緒に考え、計画を練っていく中で、徐々に団結力が備わっていった。活動は個人プレーではないので、そこでの団結力は活動するにあたって、とても大切なことだと思った。

どんなことをしたら利用者が喜ぶのか、職員さんの力になることが出来るか、限られた場所・時間で何が出来るのか。様々な条件を踏まえて上で、計画していくのは、とても充実していて、実際に活動するのがとても楽しみだった。

そして、初めてもやいの職員さんを混じえて、計画について話し合ったとき、何をするかがはっきりと見えてきて、笑顔で“宜しくお願いします”と言っていただいたときは、とても嬉しくて、活動へのやり甲斐を感じた。

活動初日は、流しそうめんを実施させていただいた。準備の段階で、地域の方が流しそうめんの竹を作っていただいたり、野菜をいただいてると聞いて、地域の人たちで協力し合って、幅広く繋がっている団体なんだと、改めて思った。流しそうめんでは、地域の高

齢者の方々や子どもたち、施設の方々といろんな人が参加していて、とても賑やかだった。何よりも利用者さんだけではなく、職員さんたちも楽しんでいて、みんなが笑顔の中お手伝いをさせていただくのは、とてもやり甲斐を感じた。

中には足が不自由な方もいて、1人で歩いているのに気付いても、すぐに行動出来ず、結果的に職員さんに任せてしまった自分にとても悔しい思いをした。

次に、在宅訪問サービスの同行をさせていただいた。障害を持つ娘とお父さん、2人の家庭で、基本的に支援内容としてはご飯を作るということだったが、私は、家の掃除をさせていただいた。職員さんがご飯を作っている間に、お父さんと2人で掃除をしたのだが、何度も“すみません、すみません”“ありがとうございます”という言葉を聞いて、何だか嬉しい気持ちよりも、悲しい気持ちになった。このような、現状があるのだということを目の当たりにして、本当にショックを受けた。どうにかしてあげたいという気持ちが本当に大きかった。高齢者である親が障害のある子どもの面倒をみていくということは、実際かなり大変なことだと思う。どうしたらいいのかととても悩んだ。

次にデイサービスに同行して、利用者のみなさんと、デイサービスの一日をご一緒させていただいた。午前は健康のための棒での体操から始まり、指を動かすことによって脳の体操になるということでカード遊びをしたりした。みなさんがとても楽しんでいて、私も素で楽しんで参加していた。お昼は職員の手作りのご飯を、職員・利用者と一緒のテーブルで会話を楽しみながら食べた。午後は手芸をやり、みなさんが本当に器用で驚き、本当に手芸は敵わないと思った。一日ご一緒させていただいて思ったのは、とにかく職員さんと利用者さんの仲が良く、互いに楽しんでいるということである。

さらに、地域の伝統行事であるお濃茶にも参加させていただいた。全国的にも珍しい行事ということで、取材もくる程で、大変貴重な体験をさせていただいた。そんな貴重な行事をもやいで行うのも、地域との繋がりは強いからこそだと思った。一生忘れることのない経験が出来た。

また、私たちから職員さんに、今後利用者さんに教えて楽しむためということで、バルーンアートを学んでいただく機会をもった。バルーンアートについて独学で学び、それを職員さん方に指導するという、一生懸命学んだことを発信するという今までで初めての体験だった。目上の方に教えるというのは、特に責任感を感じ、緊張感があった。いざ、教える時になると、職員さんもとても一生懸命に聞いて下さり、頑張った甲斐があった。

最後に、夜空を見る会という毎年恒例である行事に参加させていただいた。ここで私たちは準備を怠ってしまったせいで、本来やるべきことが出来ず、成功を収めることが出来なかった。グループでの互いの責任の擦り付け合いが原因だと私は考えている。誰かがやるだろうという気持ちが、今回の失敗に繋がってしまった。結果的に職員さんや専門の方々のおかげで、利用者のみなさんは喜んでいただき、結果オーライで成功という形にはなったが、準備の大切さ、責任感の重要性を改めてここで感じる事が出来た。

もやいでは予想以上に学ぶことがたくさんあった。福祉についてはもちろんのこと、人間としてとても成長ができたことを本当に実感している。目上の方との接し方、関わり方。人と人との関わりの大切さ。感謝の気持ちの大切さ。(地域)福祉の現状。一生懸命、目標に向かって、仲間と頑張ること。このサービスラーニング、村上ゼミ、もやいで学ぶことが出来て、本当に良かった。

私は、必ずしも福祉の道に進むとは限らないが、ここで学んだことは必ず将来に生かすことが出来ると思う。

2.　活動を通して見えてきた地域活動と社会活動

福祉には何より人と人とのつながりが大切だということを直接見ることができた。つながりがつながりを生み、互いが助け合い、それが福祉なんだと思った。しかし、地域の中で、どうしても行き届かない場所もあり、困っている現状もあった。それは経済的な問題であったり、団体の人員の問題であったりと、原因は様々である。NPO は非営利なので、何より出来るだけたくさんの協力が必要なんだと思う。もっとみんなが NPO の存在を知り、意識を高めることだったり、国がどうしたら NPO への支援に力を入れるのか。今後の課題はたくさんあると思うが、高齢社会であることは活動を通して明らかだった。高齢者の利用者が多い中、職員の高齢化も問題であると聞いた。こんな時代であるからこそ、なお更、福祉の活性化を願う。